

キャリアアクション通信

2022/09/7 学習指導部

1 学期を振り返って

夏休みもあっという間に終わり、2学期を迎えました。「自らの進路(career)に向けて主体的に行動(action)する」ことを目指して、今年度1学期に行った取り組みを各自で振り返り、2学期の活動に繋げていきましょう。

第3学年

個人で進路研究に取り組みました。上級学校のアドミッション・ポリシーや選抜方法、学費などを調べ、ワークシートにまとめていきました。数校を比較しながら調べることで、それぞれの違いに気付けたと思います。

進路ガイダンスや奨学金説明会、進路指導部長講話などの行事で様々な情報に触れたり、学級担任や教科担任のアドバイスも得ながら、自分の卒業後の進路が少しずつ具体的にになってきた1学期でした。

夏休みの三者面談では、進路実現に向けた計画や決意を保護者と学級担任の前で発表しました。また、希望者を対象としたコミュニケーション・トレーニングでは、聴き方・志望理由や自己PRの話し方・グループ討論の仕方等を実践的に学びました。先生方のリードで、自ら挙手して発言し、活発に話し合う姿が見られました。



第2学年

◆大学見学 7月5日(火)

国際医療福祉大学と帝京大学の2コースに分かれて実施しました。コロナ禍においては、都内を始め多くの大学に関して見学が難しい状況が続いています。大学のキャンパスに初めて足を踏み入れた生徒も多く、その学びの深さや多様性、充実した設備が非常に印象的だったようです。学習意欲を高めることにも繋がりました。



帝京大学宇都宮キャンパス

【生徒の感想】●色々な分野の体験をしてみても、自分の興味あるものと無いものが分かった●自分は教育系の学校に進みたいと思っていて、今日話し合いの活動をしたときにもっと話す力が必要だと思った●大学生はほぼ全てのことを自分で考え行動し、その責任を負うということに気づきました●模擬授業などを受けて、一つのことについて深く知れる楽しさや面白さを知れたので、夏休みはオープンキャンパスに積極的に参加し、自分が行きたい大学に行けるように、少しずつ勉強していきたいです●直接学校を見学することで雰囲気を実感できたり、どんな先生がいるのか分かったりして良かったです。学校の特色、研究施設や資金が整っていることが分かりました。大学生が活動している様子を間近で見れたことも貴重ななと思いました。●私は観光学に興味があったが今回、経営学や法学の講義を受けて観光学以外にも興味を持ちました。私は人と積極的に関わる仕事に就きたいということに気が付きました。



国際医療福祉大学

◆先輩の話 7月19日(火) 7限

本校卒業の大学生5名(宇都宮大・日本赤十字看護大・中央大・城西大・埼玉学園大)が来校し、各教室において話してくださいました。それぞれ専攻の異なる5人でしたが、コロナ禍での大学生活の様子や受験の振り返り、自分の反省を踏まえた後輩へのアドバイスなど、具体的なお話を聞くことができました。年齢の近い先輩達の話は心に響くことも多く、数年後の自分をイメージした2年生も多かったのではないのでしょうか。

【生徒の感想】●中学、高校とは難易度や授業形態が全然違う●進路について悩んだ時は1人で抱え込まずに先生や親や友達に相談することが大切だとわかりました。

●先輩方の話を聞いて失敗したり後悔したりしていたので自分は失敗しないように全力で頑張ろうと思った。●自分の興味のある職業を見つけること、日頃の授業を真剣に受けて予習復習を忘れないことがやるべき事だと思いました。



第1学年

◆職業講話 5月16日(月) 7限

キャリアアクション・プロジェクトの第一歩として本校同窓会副会長の露崎様をお迎えしました。社会の第一線で活躍している先輩のお話にて、1年生はメモを取りながら熱心に耳を傾けました。「悲観的に準備し、楽観的に対処せよ」「逃げを早くに打たない」「『意識』することで『知識』に変わる」など、進路を考える上で大きな刺激となるお話をたくさん伺いました。ご紹介いただいた松下幸之助氏の「企業は社会の公器」という言葉は多くの生徒に響いたようです。社会のために何ができるかを考えて実践することのすばらしさに気付き、働く意義について考える時間となりました。

露崎様より以下の本を寄贈していただきました。是非、図書館で手に取ってみてください。

- 自分を育てる方法 (リューズ)
- 14歳の自分に伝えたい「お金の話」(藤野英人)
- 勉強が面白くなる瞬間 (パク・ソンヒョク)
- 刑法を使って考えることの面白さを伝えたいんだよ！ (仲道祐樹)

1年生の感想 ●「企業は社会の公器である」という言葉が深く印象に残りました。自分たちの仕事の利益を挙げるのはもちろんの事、ただそれだけの目的で活動するのではなく、社会の役に立つために企業を動かすという信念と言葉に心打たれたからです。●「悲観的に準備し、楽観的に対処せよ」という言葉が印象に残っています。この言葉は、部活に取り組む時でも同じ事が言えると思ったからです。準備は怠らず、本番は自信を持って取り組むことが大切だと思います。●本当にやりたいことをすべきところを新しく学びました。両親が高額なお金を払って進学をさせてくれるのを聞いて改めて自分が本当に行きたい、やりたいと思った所へ行けるよう



に今から精一杯頑張りたいです。●自分の利益ではなく、たくさんの人々のために思って仕事することは、かっこいいなと思いました。



◆キャリアアクション・プロジェクト1期スタート

5月24日(火)に分野説明会が実施され、2年生の各分野代表者数名が昨年度の活動内容を紹介しました。1学年200名を目の前にして2年生も非常に緊張していましたが、その堂々とした話しぶりに感銘を受けると同時に、各分野での活動内容を具体的に聞くことで、自分の興味関心はどの分野にあるのかを考えるきっかけとなりました。6月からは分野別に分かれて活動を開始。キャリアアクション・プロジェクトが目指すもの一つに、「地域との関わり」があります。自分が地域社会の一員であることを自覚した上で、地域が抱える問題に気付き、その解決のために何ができるのかを考えていきます。7月4・5・11・12日には以下のとおり外部から講師をお招きして、出前授業を実施しました。講義で学んだことや自分たちで調べたことを踏まえながら、実践に繋げていく予定です。



1年生の感想 ●私は一つの職業に絞るのではなく、幅広く興味を持った職種は随時調べるべきであると感じました。自分に合った職種を見つけるのは難しいと思いますが、自分に合ってるからこそ、自分らしくやりがいを持てる仕事になるのかなあと感じました。●モノづくりに関して技術的にも様々なことを学ぶことが出来たが、これからのモノづくりを支えて行くのは紛れもない我々であることを改めて確認することが出来た。●グループのみんなと意見を出し合い、共有することで自分の意見から幅広く膨らんで色々なアイデアが思いつくなと思った●自分は薬剤師を目指していましたが、自分が目指している薬剤師も、他の医療の職業と密接に繋がっていることがわかりました。また、現代の医療の目的は昔より大きく変わっていることがわかりました。●ネパールと、日本では大きな文化の違いがあることを知った。外国人に日本の価値観を押し付けず、外国の文化も大切にもらうなどして外国人とこれからは接していきたいと思う。●おなじ幼稚園児でも年によって少しずつ違う接し方をするということを知りました。とてもいい勉強になりました。●グループみんなで想像力を働かせてひとつの事を考える楽しさや大変さを感じた。

分野	日程	出前授業
①まちづくり	7/11	宇都宮大学地域デザイン科学部 ●コミュニティデザイン学科 准教授 石井大一郎先生 他大学生4名
②ものづくり	7/5	●帝京大学インターンシップに参加
③医療	7/4 7/11	国際医療福祉大学保健医療学部 ●医療福祉・マネジメント学科 教授 山本康弘先生 ●言語聴覚学科 教授 前新直志先生
④保育	7/4 7/12	●白鷗大学教育学部 児童教育専攻 准教授 中村三緒子先生 ●石橋おはなし会 (読み聞かせ講習会)
⑤栄養	7/5	●女子栄養大学 生涯学習講師 倉持光江先生
⑥スポーツ	7/4	●白鷗大学教育学部発達科学科スポーツ健康専攻 教授 竹島克己先生
⑦情報	7/12	●宇都宮大学共同教育学部 教授 川島芳昭先生
⑧国際	7/12	●元JICA海外協力隊ネパール隊員 大貫文先生
⑨教育	7/4 7/5	●白鷗大学教育学部 児童教育専攻 准教授 中村三緒子先生 ●宇都宮大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 准教授 小野瀬善行先生 他大学院生7名